二〇二五年度大阪公立大学公開講座

女たちの闘い

―フランスにおける知られざる女性職業作家たち―

講師　村田 京子　大阪府立大学 名誉教授

ジャンリス夫人『ハープの練習』(ジルー画、1791)

ローザ・ボヌール(La Vie poplulaire)

2025 5/7 WED -7/9 WED

14:30-16:00

毎週水曜日・全10回

詳細は裏面をご覧ください ▶

■ **会場** ：大阪公立大学 I-siteなんば 2階（大阪市浪速区敷津東2-1-41 南海なんば第1ビル）
■ **定員** ：60名（申込者多数の場合は抽選）　■ **対象者** ： どなたでも　■ **受講料** ：7,000円（全10回分）
■ **申込方法** ：下の(1)(2)いずれかの方法でお申し込みください。お一人様につき、一回のお申し込みが必要です。
(1) **申込フォーム**：本学Webサイトまたは右記二次元コード「申込フォーム」からお申し込みください。
(2) **往復はがき**：往信用はがきに ①氏名（フリガナ）、②年齢、③郵便番号・住所、④電話番号、⑤このチラシの入手先 をご記入の上、下記宛先へお送りください。

締切日 4月13日(日) 必着

※返信用はがきは両面とも白紙でお送りください。
（宛先）〒556-0012　大阪市浪速区敷津東2-1-41 南海なんば第1ビル
大阪公立大学 社会連携課「女たちの闘い」係
※受講の可否は 4/23(水)までに通知します。届かない場合は必ずお問い合わせください。

申込フォーム

■ **問合せ先** ： 大阪公立大学 社会連携課 Tel 06-7656-5112 Fax 06-7656-5203

大阪公立大学
生涯学習・公開講座WEBサイト ▸ 大阪公立大学 公開講座 検索

大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

※お申し込みの際の個人情報は、申込後の事務連絡、統計資料等の作成および本学公開講座等のご案内に使用いたします。利用目的以外の使用については、一切いたしません。

講義概要

フランスにおいて、職業作家が登場するのは大革命後の19世紀からで、当時、少数ながら、女性職業作家が存在していました。本講座では、日本ではあまり知られていない女性作家に焦点を当て、彼女たちが男性中心の文壇においてどのように闘ってきたのか、そしてどのような作品を生み出したのかを探っていきたいと思います。

講師：村田 京子
大阪府立大学 名誉教授

講義スケジュール

第1回 **5月7日(水)** **第2回** **5月14日(水)**	**スタール夫人は、なぜナポレオンの怒りを買ったのか** スタール夫人は、ルイ16世の財務総監であったネッケルの娘で、フランス革命との関わりが深く、特にナポレオンと対立して、彼から国外追放にされたことで有名です。まず、フランス革命とスタール夫人との関わりを見た後、彼女の小説『デルフィーヌ』『コリンヌ』を通して、彼女がナポレオンの怒りを買った理由を明らかにしていきます。
第3回 **5月21日(水)** **第4回** **5月28日(水)**	**国王の養育掛ジャンリス夫人** 後に国王となるルイ・フィリップを教育したジャンリス夫人を取り上げ、彼女を始めとする女性作家が、男性作家たちからどのように揶揄され、非難されてきたかを見たうえで、彼女の生涯を辿ると同時に、その教育論を彼女の小説『アデルとテオドール』を通して探っていきます。
第5回 **6月4日(水)** **第6回** **6月11日(水)**	**女性ジャーナリストの草分け―デルフィーヌ・ド・ジラルダン** 文学サロンの女主人として活躍すると同時に、19世紀に急成長した新しいメディア（＝新聞）において、鋭い観察眼と批判精神に満ちた時評「パリ通信」を書いて一世を風靡した女性ジャーナリスト、デルフィーヌ・ド・ジラルダンに焦点を当てていきたいと思います。
第7回 **6月18日(水)** **第8回** **6月25日(水)**	**労働者階級の作家―フロラ・トリスタン** フロラ・トリスタンは、マルクスに先駆けて労働組合を組織すべきだと訴えた活動家で、私生活では父親の遺産を求めてペルーまで単身赴いたものの、私生児であるために遺産がもらえず、後にはストーカーとなった夫にピストルで撃たれて重傷を負うなど、波瀾万丈の生涯を送りました。彼女の著作『ペルー旅行記』『ロンドン散策』などを通して、その生きざまと彼女の思想に焦点を当てていきます。
第9回 **7月2日(水)** **第10回** **7月9日(水)**	**男装の女性画家―ローザ・ボヌール** 警察から「異性装許可証」を交付されない限り、女性がズボンを穿くことを禁じられていた19世紀フランスにおいて、ローザ・ボヌールは「ズボンを穿いた女性画家」として有名でした。しかも馬や牛、野生動物（ライオンなど）の勇壮な姿を描いた彼女の絵は「男性的な逞しさ」に溢れていると絶賛されました。彼女の絵画を参照しながら、女性の画家同士の連帯を目指したその生涯を辿っていきます。

※感染症の流行や自然災害等の影響により、日程・開催方法・講座内容が変更となる場合があります。

スタール夫人（フランソワ・ジェラール）

フロラ・トリスタン（コンスタン画、『パリと地方の美人肖像画集』(1840)

デルフィーヌ・ド・ジラルダン（ルイ・エルサン1824）